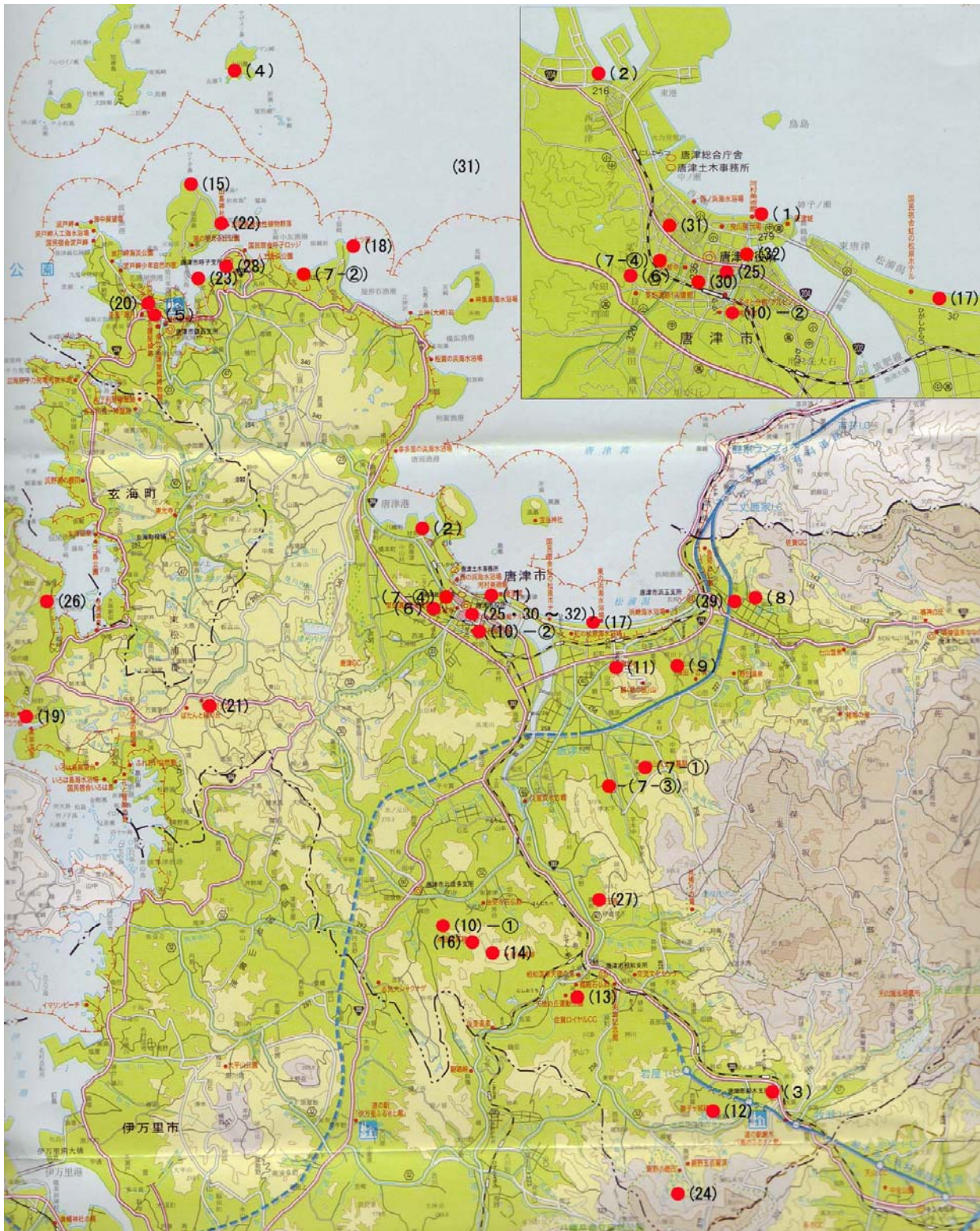


唐津市・東松浦郡（玄海町）の文化財散歩

国・県指定有形文化財(建造物)、有形民俗文化財(建造物)、史跡・天然記念物(動物を除く)、重要文化的景観、登録文化財



唐津市

重要文化財

(1)旧高取家住宅



唐津市北城内

炭坑主として成功した高取伊好（これよし）の旧宅で、海岸沿いに建つ。建築年は明治37年で、和風を基調にし居室棟に洋室を持つなど近代和風建築の特色を持つ一方、大広間棟に能舞台を設けるなど他に類例を見ない特色を持つ。また、杉戸や欄間などの内部意匠にも優れる。

重要有形民俗文化財

(4)小川島鯨見張所



唐津市呼子町小川島

小川島鯨見張所は、山見小屋とも呼ばれ、木瓦葺木造平屋建てで、小屋組は洋風様式を取り入れた大正初期の和小屋である。窓は沖合を往来する鯨の監視・発見のため、上釣り回転窓が南側に3門、北側に4門取り付けられ、風雨の強い時にも監視できるよう設計されている。

史跡

(7)唐津松浦墳墓群



唐津市宇木・桜馬場・呼子町大友

弥生時代早期（縄文時代晩期）から弥生時代中期の支石墓・甕棺墓を主体とする葉山尻支石墓①、弥生時代早期（縄文時代晩期）～中期の支石墓からなる大友遺跡②、森田支石墓群③、中国鏡や青銅製腕輪などが出土した桜馬場遺跡④など、北部九州の墓制の地域性を知ることができる遺跡群。

佐賀県重要文化財

(2)旧三菱合資会社唐津支店本館



唐津市海岸通り

三菱合資会社の長崎支店唐津出張所として明治41年（1908）に建てられた。木造2階建てで、一、二階ともに東側面、北側面にベランダが、玄関には三面破風屋根の車寄せが付く。屋根、床、基礎、内装、ベランダなどに特色があり、本県の数少ない明治時代の洋風建造物である。

唐津市・玄海町

特別史跡

(5)名護屋城跡並陣跡



唐津市鎮西町・呼子町、東松浦郡玄海町

文禄・慶長の役（1592～1598）で朝鮮半島侵略の根拠地となった城である。周囲には参集した全国諸大名の陣跡が2市町にまたがって分布している。築城は、各大名への割普請で行い、天正19年（1591）に築き始め、わずか5ヶ月で一応の完成を見たといわれる。

史跡

(8)谷口古墳



唐津市浜玉町谷口字立中

独立丘陵状の尾根の先端部に築かれた前方後円墳。全長77mで、墳丘に葺石を有する。埋葬主体部は、初期横穴式石室の要素をもつ横口構造で、石室は東西2室あり天井部が特異な合掌式である。出土品は、日本製の三角縁神獸鏡ほか鏡類、石釧、玉類、鉄器類と豊富である。築造時期は4世紀末頃と推定される。

佐賀県重要文化財

(3)石造肥前鳥居 天正十八年の銘あり



巖木町巖木 室園神社

室園神社は、天正2年（1574）獅子ヶ城主鶴田越前守が蔵王権現を奉ったことに始まると伝える。長い石段の中程に建つ鳥居は、石造肥前鳥居の中でも最も古い天正18年の造立銘を有する。

唐津市

史跡

(6)菜畑遺跡



唐津市菜畑字松円寺

昭和55・56年に唐津市教育委員会の発掘調査によって、縄文時代前期から弥生時代中期にかけての住居跡・土壇墓・甕棺墓・水田跡・井堰・貝塚が発見された。水田跡は畦畔や矢板列によって区画されており、最下層の水田跡は、現在確認できる日本最古の縄文時代晩期の水田跡である。

史跡

(9)横田下古墳



唐津市浜玉町横田下字西の谷

鏡山の北東に立地する推定直径約30mの円墳。内部主体は単室の横穴式石室で、玄室は玄武岩の扁平割石をもち送り式に平積みし、天井部は扁平な花崗岩3石を載せる。壁面に赤色顔料が塗られる。石室内には3つの石棺があり、獣帯鏡、方格規矩鏡、筒形銅器、短甲等が副葬されている。5世紀前半～中頃に築造された考えられる。

唐津市

史跡

(10)肥前陶器窯跡



唐津市町田・北波多村帆柱

北波多の岸岳山麓には、皿屋窯、皿屋上窯、帆柱窯、飯洞甕上窯・飯洞甕下窯の5基の窯跡が所在する(①)。これらの窯跡は16世紀末頃のごく初期のものである。また、唐津市街地には御茶わん窯跡があり(②)、焼成室7室以上からなる連房式登窯の構造になっている。唐津藩の御用窯として使用されていた。

佐賀県史跡

(13)鵜殿石仏群



唐津市相知町相知字和田

松浦川中流右岸の丘陵北面に刻まれた磨崖仏群で、50cm余りの小仏龕から5mを超える不動明王まで六十余体の磨崖仏からなる。伝承によれば唐より帰朝し、松浦に着岸した空海が阿弥陀・釈迦・観音を刻んだことに始まるとされる。

佐賀県史跡

(16)岸岳古窯跡(道納屋窯跡)



唐津市相知町佐里上

岸岳山麓に点在する初期唐津焼を焼成した「岸岳古窯群」のひとつ。水平全長は34.5mで、現在確認されている「岸岳古窯群」の中では最大で、焼成室は14室あったと考えられる。壺・甕などのほか、他の岸岳古窯群に見られない天目形碗も出土している。

佐賀県史跡

(11)島田塚



唐津市鏡

鏡山の西麓に位置する全長33.4mの前方後円墳。内部主体は単室の横穴式石室で、後円部の中央に設けられ南に開口する。玄室の奥に長さ2.4mで6個の縄掛突起をもつ砂岩削り抜き舟形石棺が置かれている。出土遺物には、方格規矩鏡・六獣鏡・金銅製冠・金銅製三輪玉・銅鉤・銅釧等がある。6世紀前半の築造と推定される。

佐賀県史跡

(14)岸岳城跡



唐津市相知町佐里、唐津市北波多岸山国有林内

岸山山頂部の尾根上に築かれた山城である。中世後期松浦党の棟梁とされた波多氏の居城である。城跡遺構としては、石垣・曲輪・堅堀等の遺構が良好に残存している。

特別名勝

(17)虹の松原

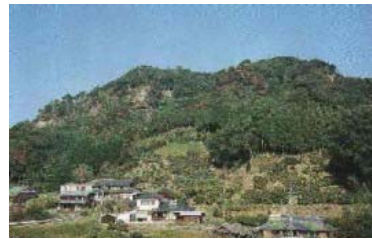


唐津市(東唐津、鏡、浜玉町浜崎)

玄界灘に沿って、幅約500m、長さ約4kmにわたってクロマツを中心とする松林が続く。17世紀の初め唐津初代藩主寺沢志摩守広高が、新田開発のため自然林に植林したのが始まりといわれ、藩政時代は「二里の松原」などと呼ばれていた。現在の松原は、防風・防砂・防潮林の役割を果たすとともに、日本

佐賀県史跡

(12)獅子城跡



唐津市厳木町大字岩屋

厳木町浪瀬地区の北方にある白山に所在する。岸岳城主波多氏の家臣鶴田氏の居城。西端最高所に主郭となる3つの曲輪を並べ、その周囲を帯曲輪が巡る。東の尾根上に出丸的な曲輪があり、その東端で尾根を断ち切る大きな堀切が城の東限をなす。各曲輪は石垣による構築を基本とし、天然の要害地を更に堅固なものにする。

佐賀県史跡

(15)瓢塚古墳



唐津市呼子町加部島字鉢ノ底

加部島の東北部に所在する前方後円墳。古墳の東側は傾斜が急となり、高さ20mの急崖を介し玄界灘に面しており、海上からの眺望を意識して築造されたと思われる。主軸長18.5m。玄室からは、須恵器、鉄器、玉類が出土している。

天然記念物

(18)屋形石の七ツ釜



唐津市湊大字屋形石

神功皇后伝説を持つ土器崎の、高さ40mに及ぶ玄武岩の断崖絶壁に、波の力により浸食された七つの海食洞がある。中央のものは、間口、高さ共3m、奥行きは110mもある。ここの玄武岩の柱状節理は、傾斜したり倒れたりしているが、多くの柱が海中に没するさまは、壮観である。

唐津市

天然記念物

(19)高串アコウ自生北限地帯



唐津市肥前町字高串湯

アコウは、クワ科に属する高木で、台湾から九州・四国にかけて分布している。雌雄異株であり、春にイチジクに似た小さくて丸い実を結ぶ。当地は、高串港の入り江となった海岸近くで、切り立った砂岩の岸壁上に大小10数株のアコウが点在する自生分布北限地帯である。大きいものは樹齢180年ほどと推定され、樹高7m、枝張り5mに及ぶ。

佐賀県天然記念物

(22)加部島暖地性植物群落



唐津市呼子町加部島

玄界灘に浮かぶ島々は、対馬暖流の影響を受け、県内でも温暖な所であり、暖地性植物が多く見られる。中でも加部島の暖地性植物群落は、最もよく保存されている。加部島の東端田島神社の社林や北東部の海岸斜面、南西・内陸部、南面中央部によく残り、特にアオノクマタケランとギョクシンカの自生地であることは特筆できる。

登録文化財

(25)竹屋



唐津市中町

大正12年に、唐津市の繁華街にある老舗の料理店の木造三階建の店舗として建てられた。一階は調理場と家族の住居部であるが、二階は六畳の客室が三室、三階は十畳の客室二室が配されている。いずれも吟味された材料を用い、階段周廻りや客室の欄間、床棚など凝った造作となっている。

天然記念物

(20)広沢寺のソテツ



唐津市鎮西町池の端

名護屋城跡山里丸の広沢寺は、秀吉の側室広沢局が一堂を建てたのが始まりとされる禅宗寺院で、ここに文禄の役の際、朝鮮から持ち帰ったと伝えられる大ソテツがある。ソテツは中国南部から、沖縄や九州南部に自生する雌雄異株の常緑低木であり、夏に雄花雌花をつける。このソテツは、根回り樹高とも約3m、枝張り約6mあり、主要な枝だけで40数本もある巨木である。

佐賀県天然記念物

(23)弁天島の呼子岩脈群



唐津市呼子町殿ノ浦字辻

呼子町殿ノ浦と加部島の間位置しており、北の男島、南の女島の2島からなる。両島は干潮時に地続きとなるが、広大な海食台をほぼ同じ方向に貫く、数本の岩脈が観察できる。これは佐世保層群(古第三期)を玄武岩類の溶岩が貫入したことにより形成された。岩脈の活動年代は、15.8±0.8百万年、15.2±0.9百万年と考えらる。

登録文化財

(26)旧杵島炭坑大鶴鉱業所第二坑口



佐賀市肥前町大字入野甲

石炭搬出のため建造されたもので、コンクリート造り。坑門と約7メートルの坑道からなる。当地の炭鉱開発は明治初期に始まるが、昭和9年に香春鉱業株式会社の経営となり、さらに昭和11年に杵島炭鉱株式会社を買収され、杵島炭鉱大鶴鉱業所となり、本格的な採掘が行われるようになった。昭和32年に閉山。

佐賀県天然記念物

(21)切木のボタン



唐津市肥前町切木乙

唐津市肥前町切木の出直登氏宅の庭先にある。高さ約50cmの石垣で囲まれた東西5.6m、南北6mの花壇にあふれんばかりに栄えているが、もとは1株であったといわれる。ボタンは中国原産のキンポウゲ科の園芸植物・落葉低木で、切木のボタンは毎年4月下旬に満開を迎え、直径25cm程の淡い紅色の八重の大輪を400個以上も付ける。樹齢は200年を越すと推定される。

重要文化的景観

(24)蕨野の棚田



唐津市相知町平山上

八幡岳の馬蹄形状をした北向きの急斜面地に約36haにわたって広がっている。棚田の石積みは野面積みを基本とし、平均高3~5m、高いものでは8.5mに及ぶ。上流部には棚田の水源となる2つの溜池がある。棚田の築造は江戸後期にまで遡るようだが、現存するもの大半は明治から昭和20年代までに形成されたものである。

登録文化財

(27)医王寺



唐津市相知町黒岩

永徳3年(1383)に創立された曹洞宗寺院で、岸岳城主の波多氏の保護を受け、三本山の一つに数えられる大寺院に発展した。本堂は、木造平屋建て入母屋造平入棧瓦葺建物で、棟札により安永7年(1778)建築とわかる。建築当初は屋根は茅葺であった。山門は、木造切妻棧瓦葺の薬医門で、文政4年(1821)建築。

唐津市

県重要文化財

(28)旧中尾家住宅 主屋



唐津市呼子町呼子

鯨組主である中尾家の居家で、住宅機能を持つ北棟と鯨組の社屋機能を担った南棟からなる。遅くとも天保3年(1783)には、現在の形となるが、先行して建築された北棟に南棟を増築した痕跡が残っており、北棟の建築年は18世紀前期に遡る可能性が高い。県内唯一の大規模漁家住宅であり、全国的にも希少な鯨組主建築遺構である。

登録文化財

(31)町屋カフェゼン



唐津市坊主町

大正14年に建てられた建物で、南半を質屋の店舗、北半を住宅として使用した。二階南半は質倉で、防火防犯に考慮して開口部を小さくし、モルタルで塗り込めている。現在は飲食店として活用される。

その他の施設

名護屋城博物館



唐津市鎮西町名護屋1931-3

特別史跡「名護屋城跡並びに陣跡」の保存整備事業と、文禄・慶長の役(壬辰・丁酉倭乱)及び日本列島と朝鮮半島との長い交流の歴史を調査・研究・展示紹介し、日韓の学術・文化の交流拠点となることを目的として平成5年10月に開館した。

佐賀県史跡

(29)仁田埴輪窯跡



唐津市浜玉町淵上

県内で初めて確認された埴輪窯跡であり、天井の一部が残存するなど遺存状態も極めて良好である。築窯時期は出土埴輪の特徴から5世紀中頃であり、円筒埴輪や朝顔形埴輪に格子目タタキを施すなどの特徴がみられ、古墳時代の窯業生産を知る上で極めて重要な窯跡である。

登録文化財

(32)旅館綿屋本館・洋館



唐津市大名小路

明治後期に炭鉱主の別荘として建てられた。本館は、車寄、客室など、意匠が洗練されている。昭和8年頃旅館として開業した。洋館は、本館から独立して建てられた洋風意匠の応接間で、明治期の洋館を並立した別邸建築の好例。

曳山展示場



唐津市西城內6番33号

毎年、11月2日から4日にかけて行われる、唐津市内最大のお祭り『唐津くんち』で町内を巡幸する14台の曳山を一堂に公開している。文政2年(1819)から明治9年(1876)までに唐津神社に奉納された曳山は、木骨を組み、和紙を数百枚張り合わせた上に金、銀、朱、碧などの漆を塗り重ねる「一閑張」と呼ばれる工法で仕上げられている。唐津曳山行事は国の無形民俗文化財に、曳山は佐賀県重要有形民俗文化財に指定されている。

登録文化財

(30)旧村上歯科医院(中町カーサ)



唐津市中町

昭和8年に建てられた建物で、1階を和風の住宅、2階を洋風意匠の歯科診療所として使用した。現在は唐津市が取得し、喫茶店やコミュニティスペースとして活用されている。